

平成30年度 第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成30年7月27日（金）13時30分から15時まで	
開催場所	多摩区役所11階 1101会議室	
出席者の氏名	委員	青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 有北いくこ（多摩区こども総合支援連携会議） 大津努（稲田地区社会福祉協議会） 岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会） 和秀俊（田園調布学園大学） 小林由紀（地域包括支援センター（しゅくがわら）） 近藤充紀（多摩区民生委員児童委員協議会） 中村健（多摩区医師会） 山口正芳（区長推薦） 吉田稔（多摩区商店街連合会）
	多摩区地域包括ケアシステム推進本部会議幹事会委員・事務局	望月明弘（副区長） 塚本和秀（保健福祉センター長） 飯土井哲夫（保健福祉センター副所長） 徳永のり子（児童家庭課長） 岩崎美穂（保護第1課長） 瀧澤浩子（衛生課長） 宮館政幸（生涯学習支援課長） 田中仁志（危機管理担当課長） 石塚秀和（総務課長） 岩上雅博（企画課長） 吉澤朋充（地域振興課長） 豊田美由紀（地域みまもり支援センター担当部長） 鈴木宣子（地域支援担当課長） 曾我利江（地域支援担当係長） 高橋真奈美（地域支援担当係長） 正木久美子（地域保健担当係長） 石垣秀之（地域ケア推進担当係長） 今川明（地域ケア推進担当） 小木曾由樹（地域ケア推進担当）
欠席委員	内田由美子（多摩区社会福祉協議会地域課） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会） 清川享二（生田地区社会福祉協議会）	田村弘志（多摩区社会福祉協議会） 古谷欣治（多摩区町内会連合会／中野島地区社会福祉協議会） 山本望（多摩区地域自立支援協議会）
議事	<p>(1) 多摩区支え合いのまちづくり推進会議について</p> <p>(2) 地域福祉計画について</p> <p>① 地域福祉計画の位置付けについて</p> <p>② 第5期多摩区地域福祉計画について</p> <p>(3) 平成30年度地域包括ケアシステムの取組について</p> <p>(4) 今後の多摩区支え合いのまちづくり推進会議の進め方について</p>	
傍聴人の数	8名	

<p>配付資料</p>	<p>会議次第</p> <p>資料 1 …名簿</p> <p>資料 2 …多摩区支え合いのまちづくり推進黨議運営要綱</p> <p>資料 3 …第 5 期地域福祉計画策定までの経緯／第 5 期のスケジュールについて</p> <p>資料 4 …多摩区地域包括ケアシステム推進体制</p> <p>資料 5 …平成 3 0 年度地域包括ケアシステムの推進に向けた取り組みについて／平成 3 0 年度地区スケジュール／地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の進捗状況／登戸地区社協内町会関係図／稲田地区社協内町会関係図</p> <p>冊子資料…第 5 期川崎市地域福祉計画／概要版  第 5 期多摩区地域福祉計画／概要版  みまもる つながる 地域の輪～川崎版地域包括ケアシステムの取組～  第 4 期地域福祉活動計画（川崎市多摩区社会福祉協議会）</p> <p>参考資料…世代の種類と特徴</p>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (豊田部長)	第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶。 会議録のための録音設置、傍聴者等の説明。
望月副区長	副区長より挨拶。
事務局 (豊田部長)	資料の確認。
事務局 (豊田部長)	委員の自己紹介。
吉田委員	<p>12年間連合会の副会長をしている。多摩区商店街連合会には約650店舗が加入している。10年前は1300店舗ほどあったが減少している。要因としては、経営者の高齢化、インターネット普及による商店離れなどがある。</p> <p>「商店街を利用して発展してもらいたい」とよく聞くが、具体的にしないと発展は難しい。しかし、行政や金融機関のバックアップもある。事例としては、かわしんと連携がある。営業不振、後継ぎがないというような店舗の場合、かわしんを通じて他の地域の担い手が紹介され、経営を引き継ぐというようなこともしている。ネットへの対応も考えていなければならない。この他商店の支援としては、二代目がない商店などの場合、店舗や家を担保に老人ホームへの入所を支援するなどの制度を城南信用金庫が設けている。</p> <p>子育て支援は、商店街としてやれることを全てやるという姿勢で、「トイレの利用」「サロン(商店)でコーヒー一杯の提供」など、何も購入しなくても立ち寄ってもらえるような仕組み作りをしている。こども110番のような役割を商店も担っている。</p>
山口委員	<p>多摩区に住んで50年になる。子ども3人、孫6人、孫の一番上がやっとなり社会人になったという状況。</p> <p>地域福祉の活動に携わったのが、12年前になる。</p> <p>その時、国の施策として運動の推進があり、多摩区としても運動を推進しようということで、何人かが集まり、何をしようかと考えたのが、「公園体操」と「いきいき体操」「ウォーキング」で、この3つの活動を多摩区の運動推進にしようということで始め、今現在まで12年間携わってきた。</p> <p>その後、市から地域の介護予防ということで、地域のすこやか活動が始まり、市内41箇所、多摩区7箇所のうち1箇所の立ち上げに関わった。</p> <p>高齢の方向けの活動が多いが、朝・夕の子どもの見守りもやっている。</p> <p>多世代の活動としては、幼稚園の防災訓練を行った。幼稚園の園児、父兄、先生方、自治会長、周辺住民が集まり、幼稚園から災害時の避難場所である小学校まで一時間程歩いた。実施後に会議をした際、幼稚園の避難</p>

発言者	発言要旨
	<p>先はどこにするか、町会の避難場所はどこになるのか、実状と考え方が噛み合っていなかった。その後考え方をすり合わせてマニュアルのようなものを作成したと聞いている。</p> <p>このように、子どもも地域も巻き込んで何か活動をするのは良いのではないかと考えている。</p>
青木委員	<p>食生活改善推進員は全国組織であり、多摩区の推進員はその末端組織。構成員は、男性はリタイアした世代が多く、女性の年齢層は幅広いが平均年齢が高めである。多摩区では82人、市では約800人。</p> <p>市全体では、男性の比率が低い、多摩区では男性の比率が高い。多摩区では会員増強月間に、地域活動をした方、健康に気を使いたい方など男性を積極的にケアし、勧誘した。麻生区は男性が1人、多摩区には15人いる。</p> <p>定年退職し「ボケ防止のため料理を通じて世間に出てみよう。」と活動を始めた。料理を通じて、他の方々とも友好的に話し合う機会もあり、心身とも健康である。他の推進員も非常に健康的である。全国的な会合等でもよく聞くが、料理の活動をしている人は、健康であり、ぼけている方も少ない。手を動かし、頭を使うこの活動が認知症予防にもつながっているのだと思う。</p> <p>今後も会員増強をしていきたいと考えている。男性料理教室や、ボランティアとして参加している市や区の料理教室などの活動を通じて幅広い活動を進めていきたい。周りにも興味がある方がいたら、是非紹介して欲しい。</p>
有北委員	<p>当会議には、前進の地域福祉計画推進会議から、こども総合支援連携会議の代表として携わっている。NPO法人ままとんきっずとしては、26年間にわたり乳幼児親子の子育て支援の活動を続けてきている。子育てサロンや講座、産後ママサポート、一時預かり、グループ保育といった自主事業の他に、協働事業として、小学校2校での寺子屋、小・中学校の赤ちゃんふれあい体験、子育て支援センター4箇所の運営、子育て支援者養成講座、情報収集・発信事業など行政と進める事業や、市民の方々と一緒に、たまたま子育てネットワーク作り、たまたま子育て祭りの立ち上げをしたり、子どもの外遊び交流委員会を立ち上げ、10年近く活動をしたりしている。他にも個人として、民生委員、社会教育委員を承り、子ども・子育て支援に携わってきている。</p> <p>計画の中でも毎回うたわれているのが、「地域の中での多世代交流」であるが、市民が主体的になって動かないといけないだろうと、何度も言われてきている。具体的な例としては、こども文化センターと老人いこいの家の交流は、随分前から言われてきていたことだが、昨年度ようやく市でモデル事業が始められた。今年はまだ具体的な動きが見えていないが、行政</p>

発言者	発言要旨
	<p>の動きを待っていると進まないこともあるので、市民が柔軟に考えて、自分達で進めてもいいのではないかとずっと考えている。</p> <p>地域の中で核になる場所についてだが、全国の政令市の社会教育委員の集まった会合で、「小さなエリア中学校区の単位でひとつ核になる拠点があって、それは市民館、公民館、様々な名称の施設だが、そこを中心に市民が自治を目指しながら活動している」という話がありとても参考になった。川崎市、多摩区でもこのような形に活動が進められたらよいのではないかと。そのためにも、老人いこいの家、こども文化センターの活用をもっと市民が積極的に行っていければ良いのではないかと考えている。</p>
近藤委員	<p>民生委員児童委員協議会からの代表で、菅第一民協の会長をしている。今回初めて参加する。</p>
中村委員	<p>多摩区医師会の会長をしている。当会議の委員就任も長くなってきた。医療と介護、そして地域の皆さまと一緒に多摩区のために頑張っていきたいと考えている。</p> <p>チーム・たまとしては「終の住処、あなたならどこに」というメインテーマがあり、元気な高齢者をたくさん増やし、「多摩区に住んで良かった」と安心して最後を迎えられるよう、医療と介護が地域の皆さまと連携しながら活動を進めていければと考えている。</p>
和委員	<p>職場の田園調布学園大学は麻生区だが、住んでいるのは多摩区で、町内会は生田緑地のすぐそばの飯室谷町会。自分の住んでいる地域の皆さんが笑顔になるような地域になるといいという考えから、委員に就任している。</p> <p>専門は地域福祉で、学生と共に、様々な場所でフィールドワークをしている。本学は長沢まちづくり協議会と協定を結んでおり、本日、長沢で盆踊りがあるので、朝から準備をしている。このように、地域福祉を学んでいる学生が、地域の皆さまと活動させていただき、次世代の専門職として地域福祉を担っていく、このような取り組みもしている。</p> <p>また、私のルーツでもある沖永良部島や東日本大震災の被災地でも活動をしている。日本は自殺率が高い。その中でも自殺率が高い地域など、困難度の高い地域とも寄り添いながらフィールドワークと研究をしてきているので、多摩区でもそのような役割を果たせたらと考えている。</p>
大津委員	<p>稲田地区社会福祉協議会の代表で、宿河原在住。生まれも育ちも稲田地区の宿河原で、父親は農家から分家して下駄づくりをしていた。そのため私は、「北村の下駄屋のつとむちゃん」と呼ばれていた。今でも老人会や地域の社協の会合、こども達にも「下駄屋のつとむちゃん」と呼んで欲しいと伝えている。</p>
岡本委員	<p>多摩区老人クラブ連合会では副会長で、稲田地区の宿河原町会の副会長にも就任している。この二つの役職で、連携しながら出来ることに取り組んでいる。多摩区の老人クラブは5地区に分かれその下に62クラブあり、</p>

発言者	発言要旨
	<p>会員が約3,600人いる。所属する稲田地区では11クラブ、会員が約600人いる。老人クラブは高齢化により、平均年齢が80歳を超えている。活動に携わるようになった12年前の平均年齢は75～76歳であったので、10数年で年齢が上がっている。このような方々に、日々、「明るく、楽しく、元気よく」暮らしていただくにはどうしたらいいのか、家に閉じこもることがないように、友達をつくるにはどうしたらいいのか、そのために外に出るにはどうしたらいいのかを考えて活動している。高齢者を相手にお酒を飲むなど、少しでも外に出てきてもらえるように、地に足がつく活動を進めている。</p>
<p>小林委員</p>	<p>多摩区内の7つの地域包括支援センターのひとつ、しゅくがわら包括支援センターの代表。住所地で担当区域が分かれている。地域の皆さまの総合相談窓口として、他の機関と連携を図りながら活動している。</p>
<p>事務局 (豊田部長)</p>	<p>多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会委員及び事務局の紹介。</p>
<p>事務局 (豊田部長)</p>	<p>続いて、座長選出を行う。前期の会議に引き続き、和委員にお願いしたいと思うが、いかがか。</p> <p>(一同承認)</p> <p>それでは、この後の議事の進行は和委員にお願いしたい。よろしく願います。</p>
<p>和座長</p>	<p>それでは、次第に従って議事を進行する。</p> <p>議事(1) 多摩区支え合いのまちづくり推進会議について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (小木曾)</p>	<p>議事(1) 多摩区支え合いのまちづくり推進会議について、</p> <p>資料2 多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱</p> <p>資料3 第5期地域福祉計画策定までの経緯/第5期のスケジュールについて</p> <p>資料4 多摩区地域包括ケアシステム推進体制に基づいて説明。</p>
<p>和座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>何か御意見・御質問等はあるか。</p>
<p>和座長</p>	<p>続いて議事(2)に行きたいと思う。地域福祉計画について 事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局 (石垣係長)</p>	<p>議事(2) 地域福祉計画について</p> <p>① 地域福祉計画の位置付けについて</p> <p>冊子資料 第5期多摩区地域福祉計画に基づいて説明。</p>
<p>事務局 (小木曾)</p>	<p>議事(2) 地域福祉計画について</p> <p>② 第5期多摩区地域福祉計画について</p> <p>冊子資料 第5期多摩区地域福祉計画に基づいて説明。</p>

発言者	発言要旨
和座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>内容で何か御意見・御質問等はあるか。</p> <p>各調査の結果を基に多摩区の現状が整理され、それを基に全計画が位置づけられているのが本報告書の内容になるが、これについて何か御意見等あるか。各委員が携わっている活動の紹介もあったので、これについて、さらに説明して欲しいなどあれば。</p>
有北委員	<p>毎回思うのだが、地域福祉計画としてこのようなものを策定するのは良いと思うが、事務局の説明だけだと、全体的な説明のみで、「特に多摩区はこの部分に課題や問題があるので強化しなければならない」などということが見えてこない。これについては、この後の議論で説明されるのか。</p> <p>これが計画です。と示されただけで終わるのか。具体策が見えない。</p>
事務局 (石垣係長)	<p>御意見ありがとうございます。計画については、既存の事業を載せて、多摩区としてどうしていくかを示すものになっている。特に多世代をキーワードに今後も続けていかなければならないと考えており、地域包括ケアシステムの推進についても一緒に考えていくということでこの会議がある。</p> <p>先ほども説明したが、高齢者は高齢者のための施策に、子育て世代は子育て支援のための施策に税金を投入してほしいというように、求めているものが違う現状がある。限られた資源をどのように配分していくかということは、地域の皆さまと考えていかなければならない。今後2年間の当会議で、これらのことについて議論していきたいと考えている。</p>
山口委員	<p>各事業について一覧で掲載されているが、これらの事業は受け手側の意見を反映させているものなのか。今年度はこのような支援をするなど、具体的に説明しているものなのか。</p> <p>多摩区みんなの公園体操、いきいき体操、ウォーキングを支援するとあるが、どのように支援をするのか。公園体操なら、今年度はいくつ増やしていくなど、具体的な説明は今後されるのか。</p>
地域支援担当 鈴木担当課長	<p>多摩区みんなの公園体操、いきいき体操、ウォーキングは常々ボランティアの皆さまに中心になって活動していただいている。非常に日々感謝申し上げたいと思っている。各取組について、声が上がった地域については、2年間予算的な面での応援もしながら立ち上げ支援を行っている。また、各運営委員の会議に参加し、継続していく上での課題について、何か支援できることがないかと考え、支え合いながら行っている。具体的に年間何地域立ち上げようなど数値的な目標を立てるのは難しいが、各地域に合わせた支援を行っていきたくと考えている。</p>
山口委員	<p>1年間の成果などを具体的に示してもらえないと、評価ができない。毎年「〇〇を実施しました。」と報告を受けるが、それが果たして良かったのか判断がつかない。各事業について、数字などで誰にでも分かりやすく、</p>

発言者	発言要旨
	<p>評価ができるように示してもらえるといい。</p> <p>この会議は評価をする会議ではなく、意見をする会議ということだが、各事業の課題について50%達成したのか、100%なのかなど、成果を分かりやすく示したものを提示してほしい。</p>
和座長	<p>本日の議事（４）で、当会議の今後の進め方について 各委員に意見をいただいたいと考えているので、事務局は、有北委員、山口委員の意見も踏まえて説明をお願いしたい。</p>
和座長	<p>続いて議事（３）平成30年度地域包括ケアシステムの取組について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (今川)	<p>議事（３）平成30年度地域包括ケアシステムの取組について 資料5 平成30年度地域包括ケアシステムの推進に向けた取組について ／平成30年度地区スケジュール／地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の推進状況／登戸地区社協内町会関係図／稲田地区社協内町会関係図に基づいて説明。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この件について何か御意見・御質問等はあるか。</p>
和座長	<p>それでは、最後に議事（４）今後の多摩区支え合いのまちづくり推進会議の進め方について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (石垣係長)	<p>議事（４）今後の多摩区支え合いのまちづくり推進会議の進め方について 資料3 第5期のスケジュールについて に基づいて説明。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この件について、有北委員と山口委員からいい御示唆をいただいたが、次回以降当会議で議論したいことなどあれば、御意見をいただきたい。</p> <p>当会議は懇談会なので、委員の皆様から自由な御意見をいただき、地域福祉計画に反映させていきたい。</p> <p>座長として少しだけ、多摩区の地域特性について検討できないかという意見があったことについて。つながりをどう作っていくかというときの「つながり」をどう考えるか。</p> <p>東北の被災地の支援に携わっており、「絆」をどう作るか、「絆」とよく言われてきたが、地方では強いつながりが「しがらみ」となるため、そこから抜け出したいと都市部に出てくる方も多。東北でも同様なことが言われ、「絆 絆」と言うが、その絆が嫌なのだ」という声もある。</p> <p>つながり方はとても大切と考える。多摩区のような都市部では、どのようなつながり方が多世代の交流に向けて必要なのか、今後に向けて必要なのかということについて、今後の当会議で議論していきたい。</p> <p>多摩区には菅町会という日本一大きい町会もあるが、昔からお住まいの方、新住民の方もいる。自分も多摩区在住十二年目の新参加者で、町内会活動に参加しても、なかなか新住民や若い世代が参加していけない状況もある。「多摩区ならではのつながり」とは、どのようなものがあるのか。当会</p>

発言者	発言要旨
	<p>議で議論していくと、多摩区ならではの多世代の交流の仕方も見えてくるのではないかと。</p> <p>つながり方の意見としては、区の調査でも「助け合いがどうだ」というような間があるが、常に助け合う関係というのはつながりが強すぎるので、下手をすればこれがしがらみになり、息苦しい閉塞感につながってしまう。『日頃はあいさつ程度で、必要があれば助け合える』といった、柔軟性のあるゆるやかなつながりが多摩区のような都市部では求められるのではないかと。公園体操やいきいき体操での見守りなど健康のために集まっている人達が「あの人が最近来てないね」というのが、さりげない見守りだと思う。「やらなきゃいけない」とずっと見ていることは監視社会になるので、普段の生活で気楽にできるあいさつなど、しがらみにならないゆるやかなつながりを多摩区でどう作っていくかということは、この計画に基づいた具体的なものとして、多世代交流につながるようなつながりづくりを次回以降検討していきたい。</p>
有北委員	<p>参考資料及び資料5の町会関係図について説明がほしい。</p> <p>また、地域で長年活動してきて、つながりの作り方は非常に難しいと思う。大事なものは何かを一緒にすること。一緒にやって楽しいねというような、肌と肌の感覚的な共感が生まれる。外遊びの委員会を立ち上げたときに、シニア世代は区民会議で協力して子ども達の遊び場づくりをしようと事業を始めたが、実際に子育て世代とシニア世代が顔を合わせると上手くいかない。それぞれの思いがすれ違ってしまいうため、話し合いをしても分からないのであれば、とにかく一緒に遊ぼうと、生田小学校の下の校庭でイベントを開催した。実施してみると「なんだ、一緒に遊べばいいんじゃないか」とあっという間に上手くいき、外遊びの委員会ができ、十年以上活動している。一緒に何かをするというのは本当に大事で、楽しいね、嬉しいねといった共感が続いていくことが地域の魅力になっていく。また、お互いの世代について学びが必要なのではないか。参考資料にあるように、それぞれ違う。今の乳幼児はITで育っている。そのような子ども達に、顔と顔を合わせたコミュニケーションや言葉で行うコミュニケーションが大事だと伝えていくことは、学ばないとできない。我々はい「今どきの若い者は」と否定してしまうため、若い世代のことを学ばないといけない。若い世代も、シニア世代がどんな人生を送ってきて、今に至っているか学ばないといけない。遊びと学びが同時に行われていくと、地域の中のつながりもよくなるのではないかと。</p>
事務局 (石垣係長)	<p>参考資料は、これを基に、いま有北委員にいただいたような御意見をいただければと、添付した資料になる。世代の違いについては、この資料を参考にさせていただき、多世代交流の難しさなどについて、御意見をいただく材料になるのではないかと考えた。次回以降の会議でも議論の材料にしたい。</p> <p>資料5については、地域包括ケアシステムの実現として昨年度、登戸、</p>

発言者	発言要旨
	<p>稲田、菅地区へ町会長ヒアリングを実施した。ヒアリングの中でみえてきた地域のつながりを図で表したもの。多摩区としては社協の5つの区分けで地域包括ケアシステムを推進していく方針だが、各地区単位で進めていくことは難しいといった現状を示すものでもある。登戸地区を例に挙げると、小田急線を境に学区が異なり、物理的にも隔たりがあることがわかる。世田谷町田線でも区切られている。同じ社協内でも各町内会がどのようなつながりで活動しているかを示したもの。稲田地区については、宿河原や長尾の町会は異なる複数の避難所に分かれなければならない。堰などについては、隣の高津区、長尾は宮前区との関係が深いといった状況がヒアリングから分かった。これを踏まえると、稲田地区として何か取組を進めるということは現実的ではないということが分かったので、このことについて示すために作成した資料になる。</p>
和座長	<p>ありがとうございました。  参考資料については、次回以降も添付し、議論の材料にしたい。  以上で、議事は終了する。  それでは、進行を事務局へお渡しする。</p>
事務局 (豊田部長)	<p>和座長、議事の進行をありがとうございました。皆さまの御協力ありがとうございました。  それでは、本日の会はこれにて閉会する。閉会に当たり、保健福祉センター長の塚本から御挨拶申し上げます。</p>
塚本保健福祉 センター長	<p>閉会の挨拶。</p>
事務局 (豊田部長)	<p>これにて第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議を閉会する。御協力ありがとうございました。</p>
	<p>閉会</p>

以上